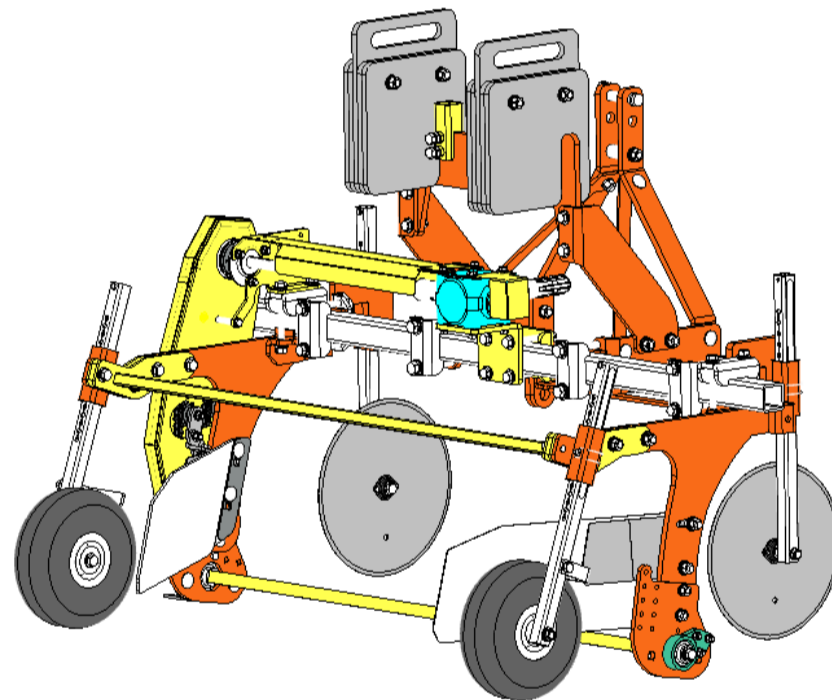


# 取扱説明書



Q-HOEC Co.,Ltd.

5-71-1,Asahimachi,Ashoro Ashoro-gun,Hokkaido,089-3721,Japan

TEL:+81-156-25-5806,FAX:+81-156-25-6121

E-mail:info@qhoe.com

Web site:<https://q-hoe.com>

## お客様へ

本製品をお買い上げ頂きありがとうございます。

この説明書は、製品の性能を十分に発揮させ、安全で快適な作業をして頂くためにも、使用前によく読んで、正しい取扱をして下さい。

なを、製品については2020年12月現在の内容であり、購入された製品と本書の内容が一致しない場合もあります。

## 補修部品

別紙で部品表が添付されています。

補修で必要になる部品がある場合は、部品表に従って注文をして下さい。

注文の際は、出来るだけ機種名、製造番号も一緒に記入して注文をして下さい。

補修部品は純正パーツ以外は使用しないでください。

類似品を使用すると製品の性能低下だけでなく、予期せぬ破損等により重大事故につながる場合があります。

## 賠償責任について

キュウホーでは、身体への損害、物損によりおきた事故が下記の原因となる場合は、責任の対象外とさせていただきます。

- ・製品の不正な使用。必ず説明書をよく読み正しい使用方法に従って下さい。
- ・運転マニュアル及びそれに含まれる安全注意事項に従わない場合
- ・商品の不正改造
- ・摩耗したパーツの監督が行き届かなかった事による被害
- ・修繕が必要なのに、修繕をせず使用した事による被害
- ・キュウホーの純正パーツ以外を使用した事による被害
- ・第三者が使用した事による不可抗力の事故または損害

## 目次

安全注意事項	3
安全ラベルについて	4
はじめに・作業前	5
道路走行について	6
警告ステッカーの意味について	7
警告ステッカー貼付位置	8
全体図	9～10
トラクタ作業機脱着	11～12
作業姿勢	13
作業前点検について	14
各部調整箇所について	15～18
圃場での調整方法	19～20
点検項目	21～22

## 安全注意事項

安全に作業するために次の事を守って下さい。

守らないと障害事故または人身事故を引き起こす可能性があります。

### ■取扱説明書について

この取扱説明書は、農作業の専門知識のある作業者及び指示を受けた人が製品の使用を行う者を対象としています。

熟読をせず、機械の操作をするとたいへん危険です。

### ■正しく使用していただくために

製品は、正しい使用方法を前提に制作されています。以下に掲げるような方法での使用は、使用者、第三者へ障害事故または人身事故を引き起こす可能性があります。製品は取扱説明書に沿った使用方法で、安全と危険に注意しながら運転または作業を行ってください。

正しく使用するには以下の内容が含まれます。

- 取扱説明書の遵守と、取扱説明書に記載された手順通り実行すること
- 製品に貼り付けしてある危険、警告、注意シールに従うこと
- 取り付けするトラクターは、製品の上限馬力を超えないこと
- すべての保守作業に従うこと
- 純正パーツの使用
- 定期的な注油作業

上記すべての指示、設定、上限馬力（13~35PS）を守ることが大切です。

またこの製品は、耕耘の行われた場所での使用を想定しており、それ以外の場所での作業は絶対に行わないで下さい。

## 安全ラベルについて

取扱説明書には、特に重要と考えられる注意事項について、次のように表示しています。

### 危険



警告文に従わなかった場合、死亡または重傷を迫ることになるものを示します。

### 警告



警告文に従わなかった場合、死亡または重傷を迫る危険性があるものを示します。

### 注意



警告文に従わなかった場合、死亡または重傷を迫ることになるものを示します。

### 取扱注意



警告文に従わなかった場合、機械の損傷を起こす恐れのある操作を示します。

## 使用目的について

この製品は、玉ねぎの収穫機専用になりますので、それ以外の使用目的での作業を、決して行わないで下さい。



## はじめに

### ■使用者の責任

取扱説明書を良く読んで、機械の使い方を覚えてから使用して下さい。

装着するトラクタの説明書もよく読んでから装着、作業を行って下さい。

取扱説明書は装着するトラクタに置き、すぐに利用できる状態にし、機械と一緒に保管して下さい。

製品の売却または、他人が使用する場合は取扱説明書と一緒に同梱して頂くとともに、正しい取扱が出来るように指導をして下さい。

製品を使用している時は、常に安全注意事項と危険注意事項を読める状態を維持して下さい。

製品の作業を行う場合は、厚での作業服、丈夫な手袋、安全靴、ヘルメットを着用して作業を行って下さい。作業服は体にフィットした作業服で作業を行って下さい。

製品は弊社の許可なく安全に支障をきたすような装置の変更、追加、改造を行わないで下さい。

製品を勝手に変更すると、すべて保証対象外となります。

トラクタの運転者は必ず使用する地域の法律に従って運転作業を行って下さい。

使用者は薬物、飲酒または医薬品により影響をうけている人は使用出来ません。

メンテナンスや調整作業は、必ず取扱説明書を熟読した物か、その対応を受けた人員のみが操作をして下さい。

### ■作業前

作業開始前は必ず製品の異変、ボルト、ナットの緩みやピンの脱落がないか確認をして下さい。

トラクタへの着脱は、最も慎重に作業を行って下さい。

着脱作業は、平坦な場所で十分な広さがあり、コンクリートなどの地盤がしっかりとした場所で行ってください。

着脱は出来るだけ明るい場所で行い、薄暗くなる時間の場合は、照明等を用いる等、安全に留意して行って下さい。

3点ヒッチの領域は身体の挟み込みや切断などの危険がありますので注意して下さい。

製品の3点ヒッチの着脱時に、トラクタ等の操作を誤ることでの作業機の上昇または下降が起きないように、エンジンはストップする事と、ブレーキはパーキング、油圧ロックがあるトラクタは油圧をロックし、不測の事態が起きないように安全対策をして下さい。

3点ヒッチ着脱の際、作業機とトラクタの間に入らないで下さい。

作業機の着脱後、立ち止まる事は危険です。すみやかに安全な場所に移動して下さい。

安全の為、製品は常に泥等の付着を取り除いて下さい。

## ■道路走行について

道路を走行する場合は当該国の規則に従って下さい。

本機には法定装置等が装着してありませんので、道路走行で法定装置が必要な場合は使用する国の法律に従って下さい。

この作業機には保安装置が装備されていませんので、道路走行は出来ません。

■警告ステッカーの意味について

下記警告ステッカーには以下のような意味があります。

警告ステッカーは、常にきれいにし、取り外したりしないでください。



作業機調整作業や、保守部品の取替作業時は必ずトラクタのエンジンを停止するとともに、トラクタのキーを抜いて確実に停止していることを確認してから作業を行って下さい。

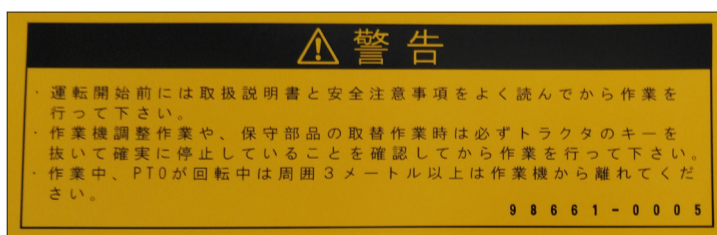


PTOが回転している時は、絶対に近づかないで下さい。PTOで駆動する部分は必ずエンジンを切り、回転が止まったことを確認してから作業を行って下さい。



回転棒の回転方向を示しています。

チェーンケースなどを開けて作業する場合、回転したまま作業をすると身体の一部が巻き込まれ非常に危険ですので、トラクタのエンジンを切り回転がとまってから作業を行って下さい。



作業機調整作業や、保守部品の取替作業時は必ず取扱説明書をよく読んでから作業して下さい。熟読をせず作業を行うと非常に危険です。



安全ボルトについての注意シールです。

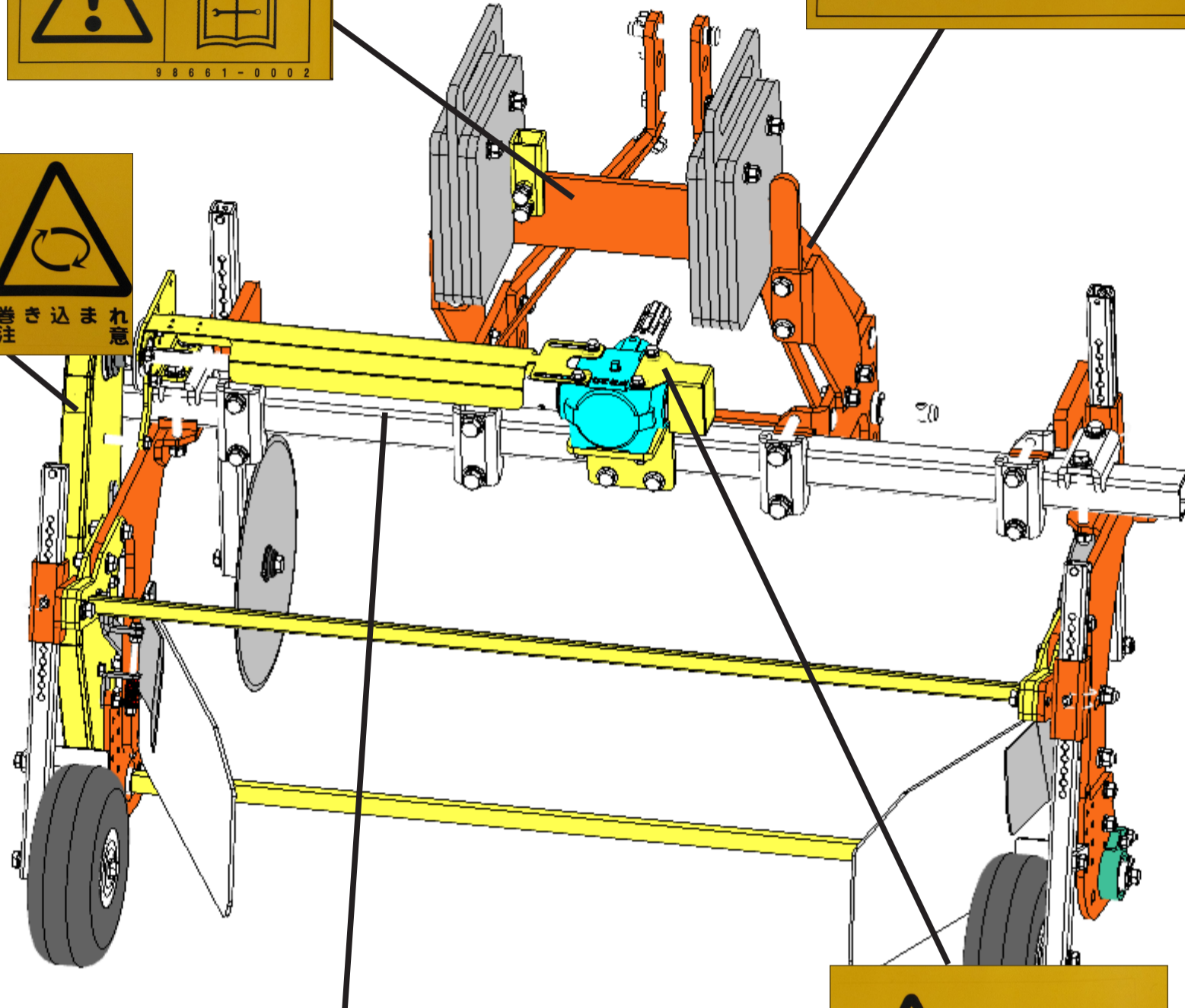




**警告**

- ・運転開始前には取扱説明書と安全注意事項をよく読んでから作業を行って下さい。
- ・作業機調整作業や、保守部品の取替作業時は必ずトラクタのキーを抜いて確実に停止していることを確認してから作業を行って下さい。
- ・作業中、PTOが回転中は周囲3メートル以上は作業機から離れてください。

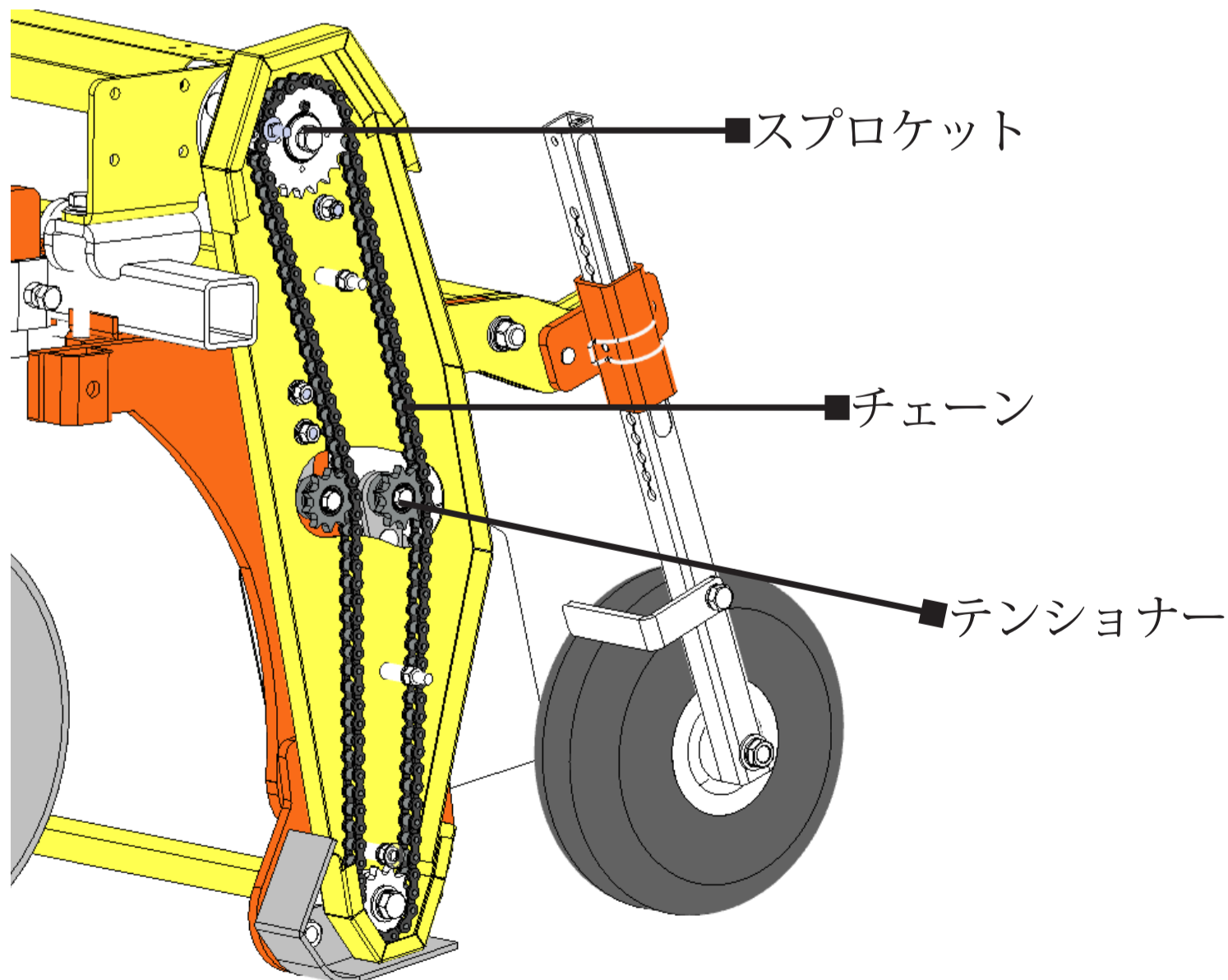
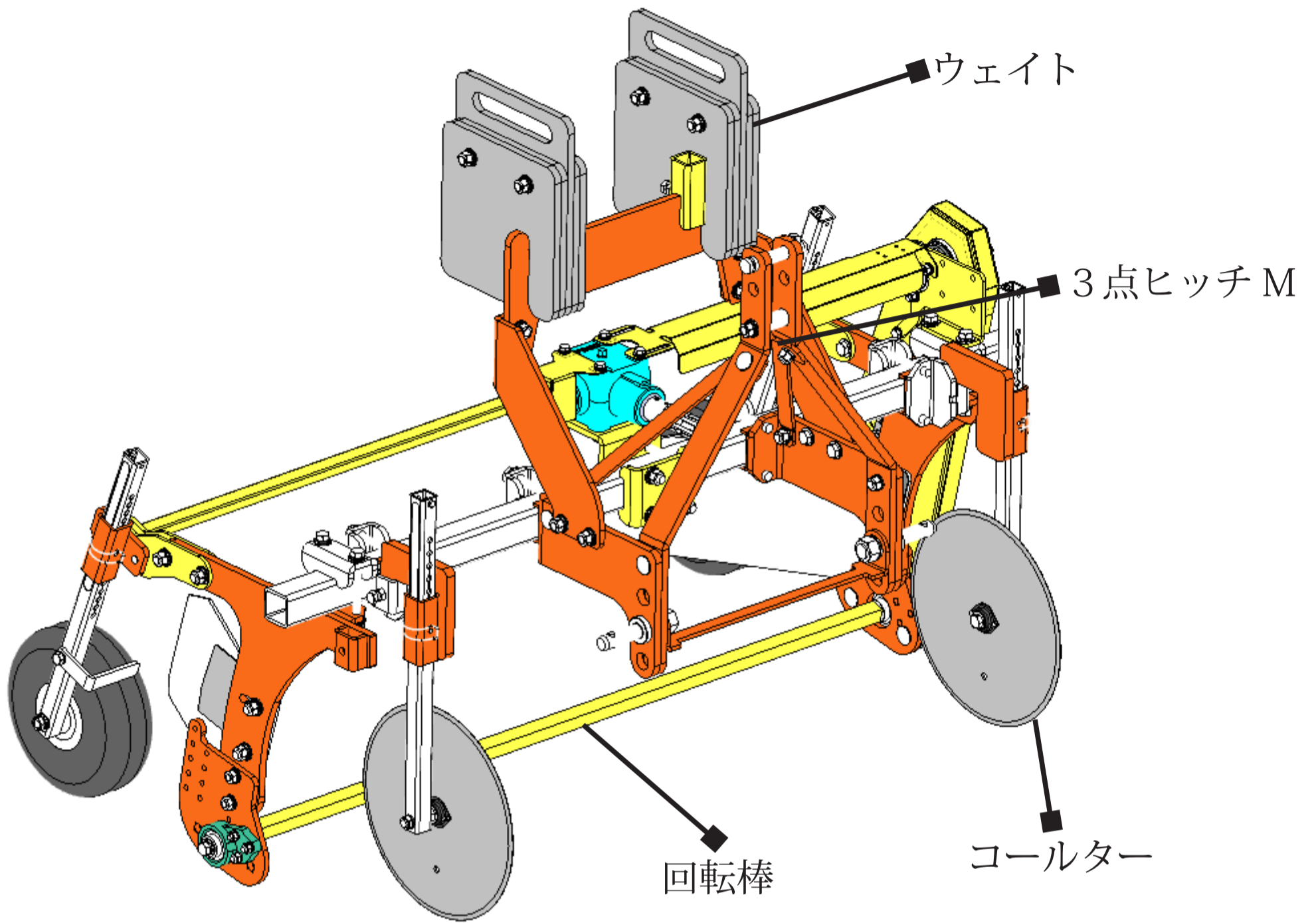
98661-0005

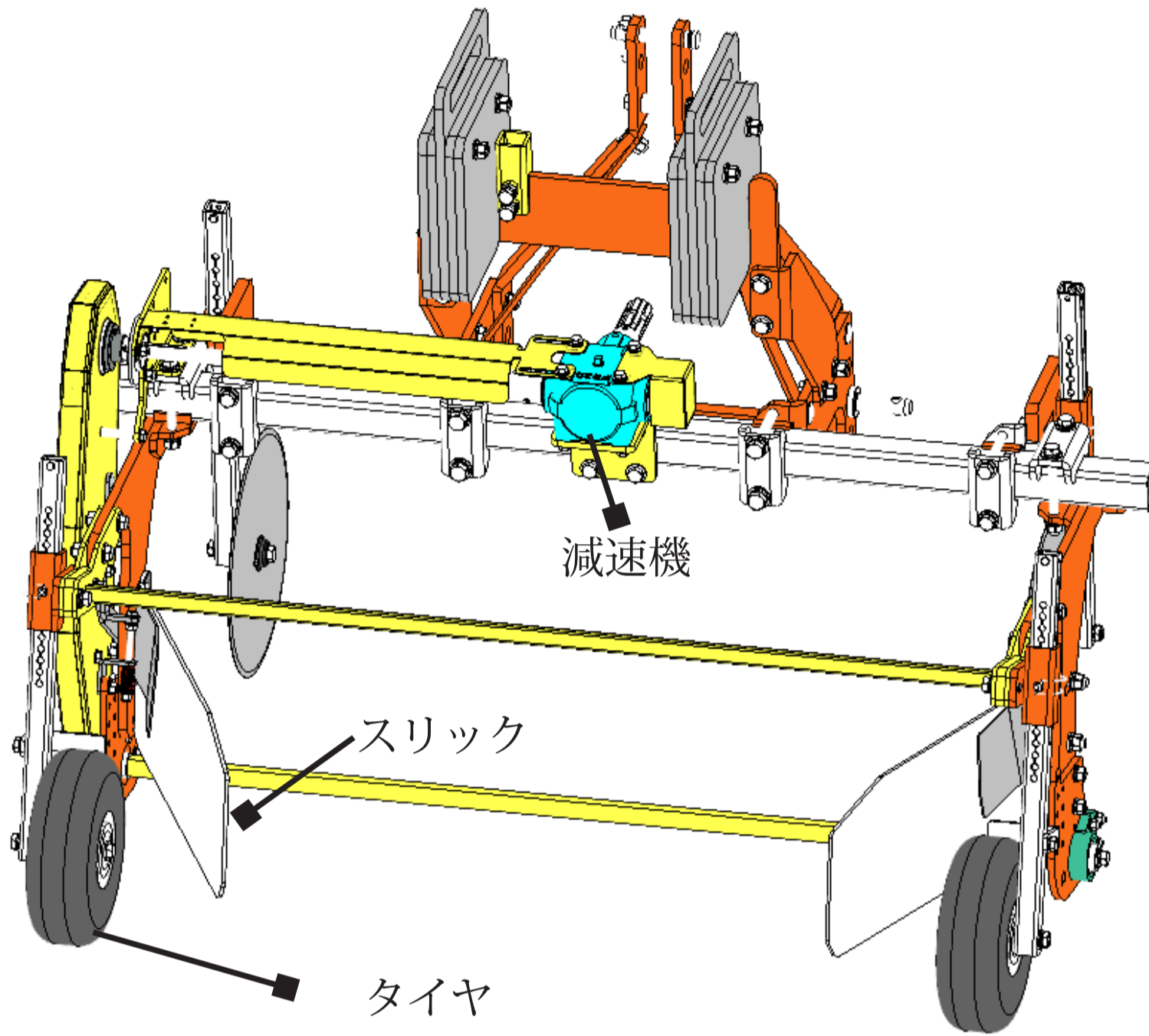


銘板シール位置



■各部名称  
全体図





## トラクタへの作業機脱着

### 警告 作業機脱着の際、危険が伴います

作業機脱着の際、3点ヒッチとトラクタの領域は身体の挟み込みや切断などの危険がありますので注意して下さい。

3点ヒッチの着脱時に、トラクタ等の操作を誤ることでの作業機の上昇または下降が起きないように、エンジンは必ずストップ、ブレーキはパーキング、油圧ロックがあるトラクタは油圧をロックし、不測の事態が起きないような安全対策をして下さい。

作業機着脱の際、作業機とトラクタの間に人が入らない様にして下さい。

作業機の着脱後、立ち止まる事は危険です。すみやかに安全な場所に移動して下さい。

安全の為、製品は常に泥等の付着を取り除いて下さい。

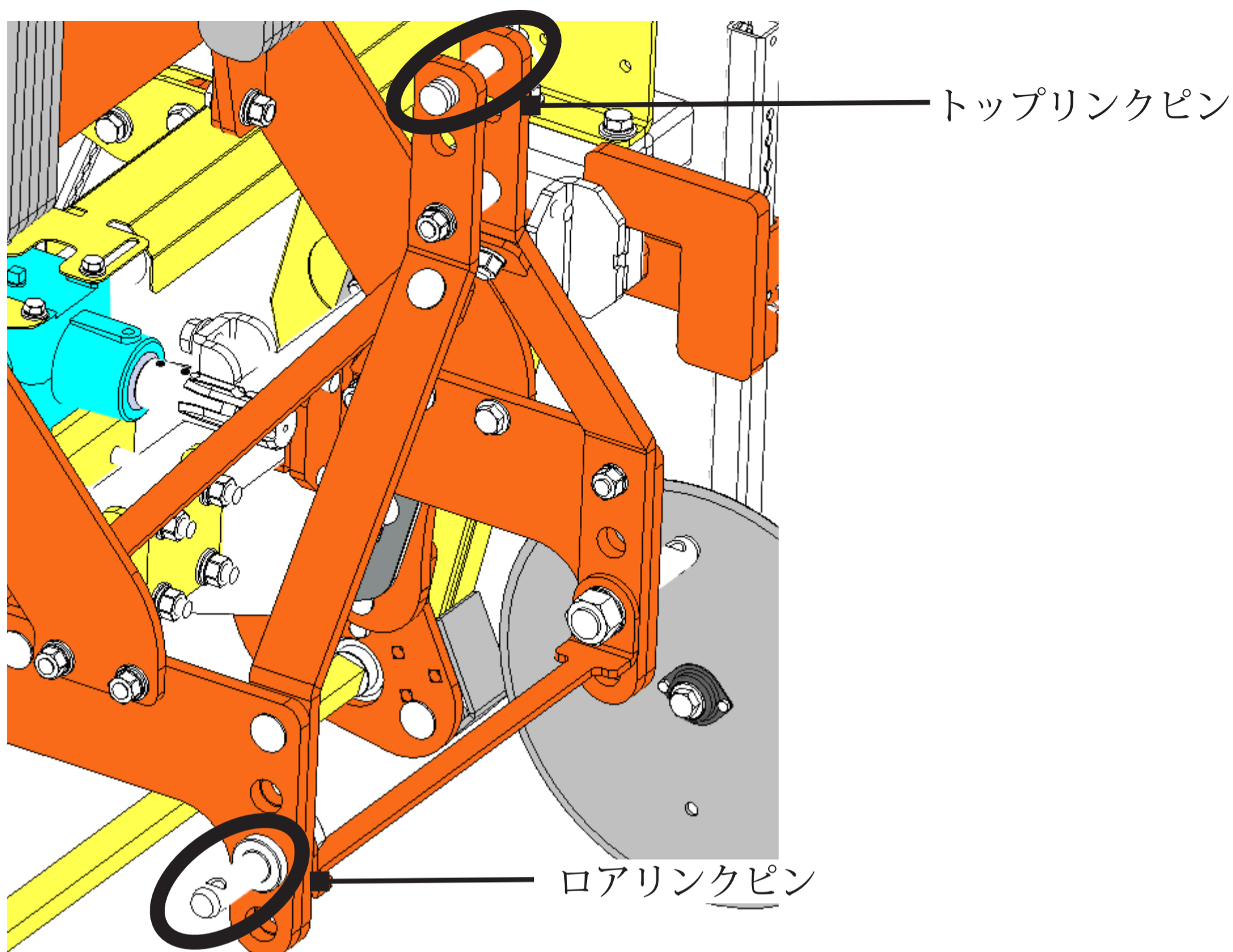
### 警告 作業機脱着の際、作業機に身体が当たり怪我をする場合があります

1. 作業を行う場合は、厚での作業服、丈夫な手袋、安全靴、ヘルメットを着用して作業を行って下さい。
2. 作業服は体にフィットした作業服で作業を行って下さい。
3. 着脱作業は、平坦な場所で十分な広さがあり、コンクリートなどの地盤がしっかりとした場所で行ってください。
4. 着脱は出来るだけ明るい場所で行い、薄暗くなる時間の場合は、照明等を用いる等、安全に留意して作業を行って下さい。
5. 2人で作業を行う場合は、たがいに合図しあって作業をしてください。
6. トラクタと作業機の間に入らないよう注意して下さい。

#### ■作業機の取付

1. トラクタの左右のロアリンクをヒッチピンに取付します。
2. トップリンクを取付します。
3. 作業機を持ち上げた状態で、作業機を中心とトラクタの中心をチェックチェーンで左右均等になるように調整して下さい。左右の横振れは10～20mm程度以内になるように調整して下さい。
4. トップリンクの長さは、本機フレームが水平になるように長さを調整して下さい。





**⚠ 警告** 作業機脱着の際、危険が伴います

1. 本機とトラクタの装着が終わりましたら、各部ピンの抜けどめが確実にされているか確認してから作業を行って下さい。
2. トップリンクの調整は必ず作業機を地面に接地させて行って下さい。場合によってはトップリンクが抜けて作業機が落下することがあり危険です。



装着後、ポジションレバーでゆっくりと上昇させ、トラクタと本機との緩衝がないか確認をしてください。キャビン付きの場合は、背面のガラスを割らないように注意してください。

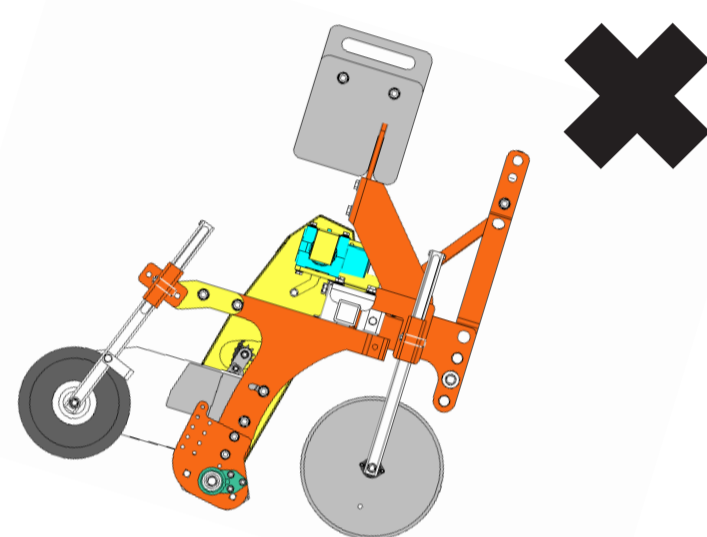
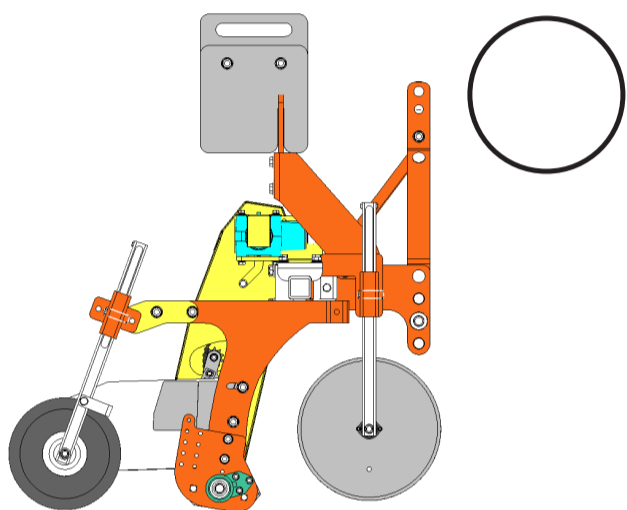


**⚠ 警告 作業機脱着の際、危険が伴います**

1. 作業機を取り外す場合は、平坦で出来るだけコンクリートまたは、地盤のしっかりした場所とスペースで行って下さい。
2. 作業後、取り外す前に、調整を行った箇所に気をつけて作業機を外して下さい。出来るだけ、使用後は出荷状態と同じような状態に戻して脱着を行って下さい。

**■作業姿勢**

作業姿勢は作業機が水平になるように、トップリンクを回して下さい。

**■作業機の取り外し**

1. 作業機の取り外しは、取付た順序の逆で進めていきます。
2. まずトラクタのポジションレバー下まで下げて、作業機が水平に地面についている事を確認してください。
3. トップリンクを外します。その際、トップリンクの長さによっては、外す場合に予期せぬ動揺がおきる場合がありますので、注意をして作業を行って下さい。
4. チェックチェーンを緩めてからロアリンクピンを外して下さい。

**⚠ 警告 ジョイント取付の際、危険が伴います**

1. ジョイントの取付に関しては、必ずエンジンをきりパーキングブレーキを掛けて安全が確実にってから取付作業をして下さい。
2. 取付るトラクタによってはジョイントが長いばあいがあり、その場合はジョイントを適正な長さに切断をして下さい。
3. PTO が回転している場合は、絶対にジョイントに触らないで下さい。

## 作業前点検について

作業を行う前には必ず、毎回、各部のボルト・ナット類に緩みはないか、増し締めしながら点検をして下さい。その他に、ピン等も抜け落ちそうになっていないか、各部のチェックをしてから作業を行って下さい。

### 警告 作業機の取付に注意

1. 作業機を点検する場合は、平坦で出来るだけコンクリートまたは、地盤のしっかりした場所とスペースで行って下さい。
2. トラクタのエンジンを止め、駐車ブレーキをかけて作業を行って下さい。
3. 作業機は必ず地面におろし、場合により持ち上げた状態で点検を行う場合は、必ず油圧をロックし、頑丈な台などを作業機の下に置き、作業機が絶対に落下しに措置を講じて作業をこなしてください。

### 警告 作業機を使用する場合は危険が伴います

トラクタ移動の場合は、作業機を持ち上げ、油圧ロックをし、チェックチェーンも確実に張れているか確認して下さい。

移動距離が長い場合は、トラクタの振動により部品が落下する場合がありますので、ボルト・ナット類の緩みは確実に増し締めするとともに、定期的に緩みがないが安全な所で停まり、時々チェックをしながら確認をして下さい。

移動の際は、作業機幅、前後幅に気を配り、安全を確認しながら走行して下さい。

作業機をつけた状態での高速運転、急発進、急ブレーキ、急旋回、大きな段差がある道路では徐行をしながら安全に走行して下さい。

圃場に入るときは、必ず前進で速度を下げ、畑との段差や高低差に対して直角に進んで下さい。

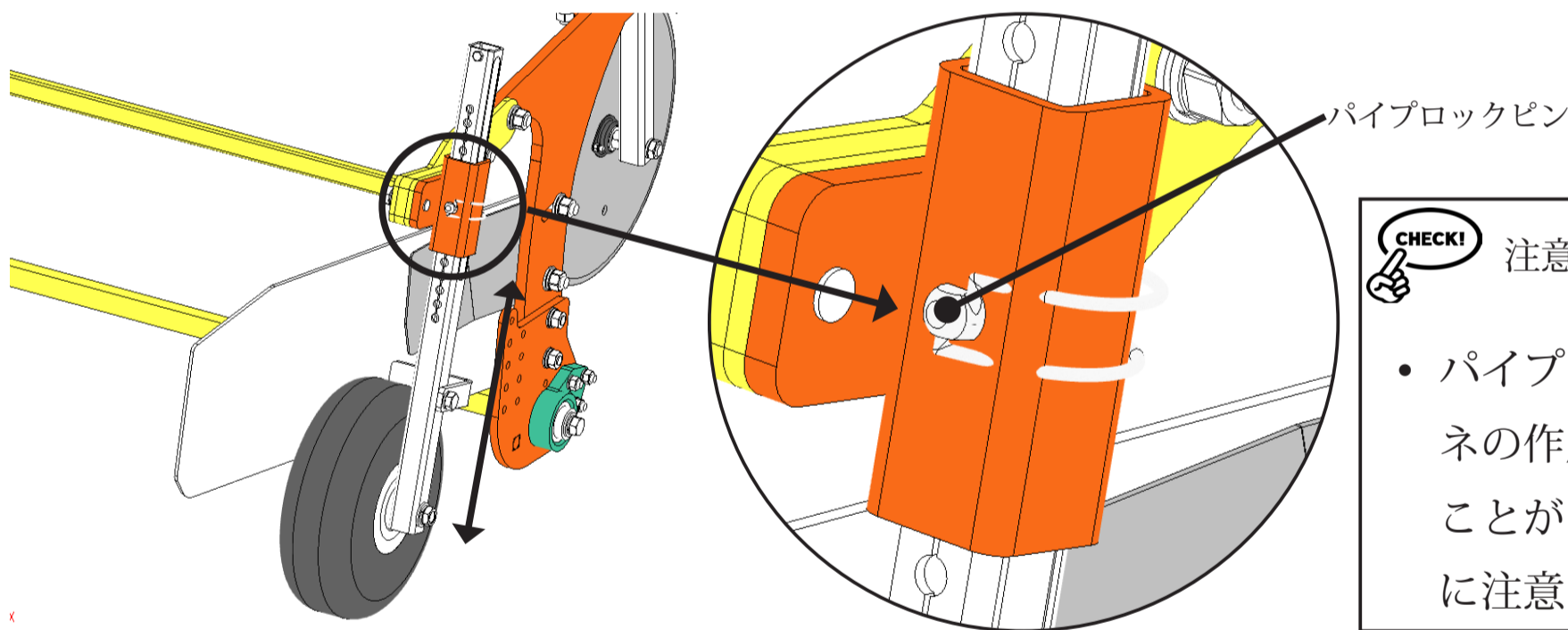
## 調整について

### 警告 作業機を調整する場合は負傷する危険があります

1. 作業機を点検する場合は、平坦で出来るだけコンクリートまたは、地盤のしっかりした場所とスペースで行って下さい。
2. トラクタのエンジンを止め、駐車ブレーキをかけて作業を行って下さい。
3. 作業機は必ず地面におろし、場合により持ち上げた状態で点検を行う場合は、必ず油圧をロックし、頑丈な台などを作業機の下に置き、作業機が絶対に落下しない措置を講じて作業をこなしてください。
4. 作業を行う場合は、厚での作業服、丈夫な手袋、安全靴、ヘルメットを着用して作業を行って下さい。
5. 作業服は体にフィットした作業服で作業を行って下さい。

### ■タイヤ調整方法

1. タイヤの高さを調整する事で耕深を調整出来ます。
2. パイプロックピンを外して高さを調整します。

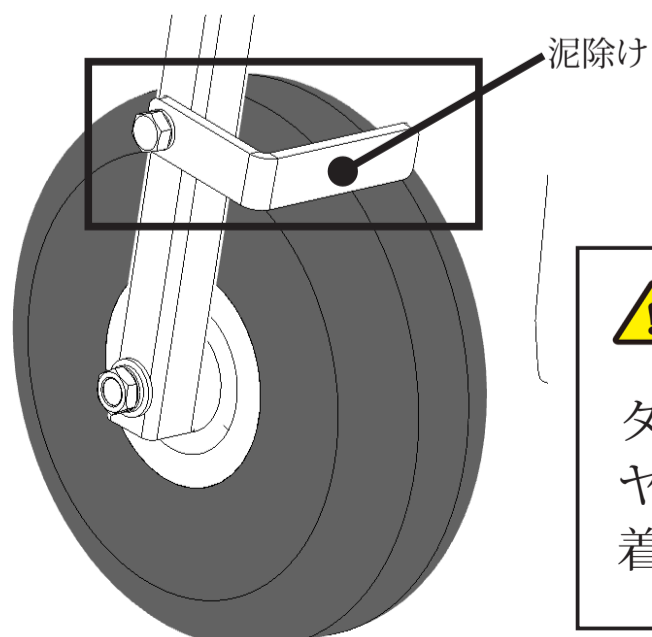


#### 注意

- パイプロックピンは、バネの作用により跳ね返ることがありますので取扱に注意して下さい。

### ■泥除けについて

タイヤに泥が付着してタイヤ経が変わりにくくするため、泥除けを装備しています。タイヤと泥除けが接しない程度にネジを緩めて調整をして下さい。



### ■タイヤ空気圧

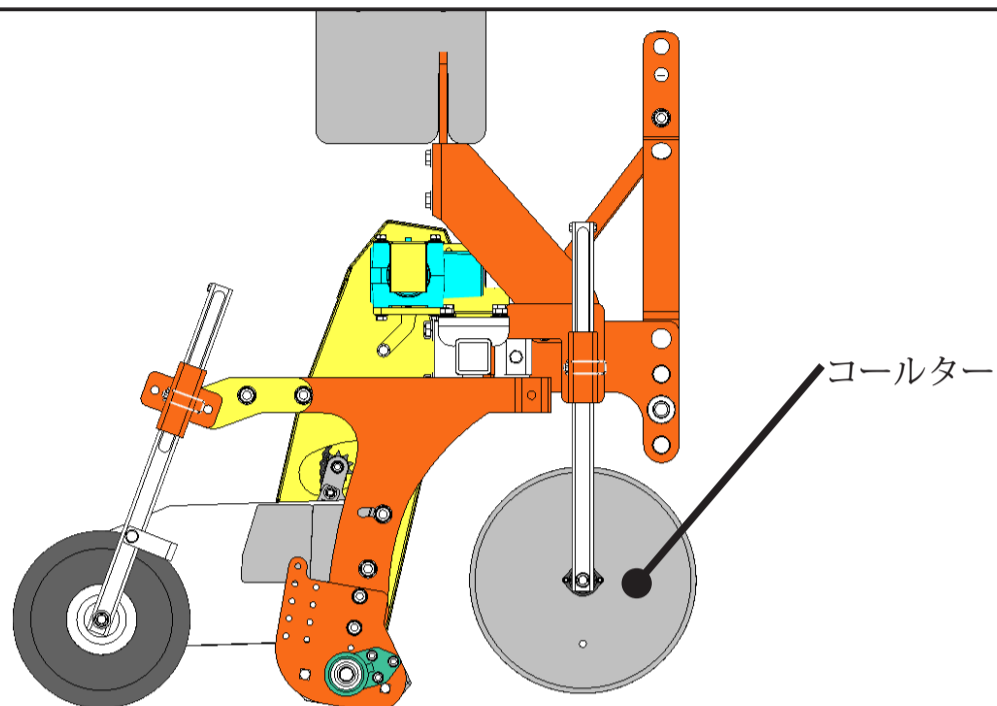
タイヤ空気圧は 2.6 ~ 2.8bar を最大に調整して下さい。

#### 注意

タイヤの空気圧が高すぎるとタイヤの破裂に繋がります。タイヤの空気を入れる場合はタイヤ単体で空気を入れず作業機に装着した状態で空気を入れて下さい。

**!** 注意 コールターを調整する場合は手足に注意

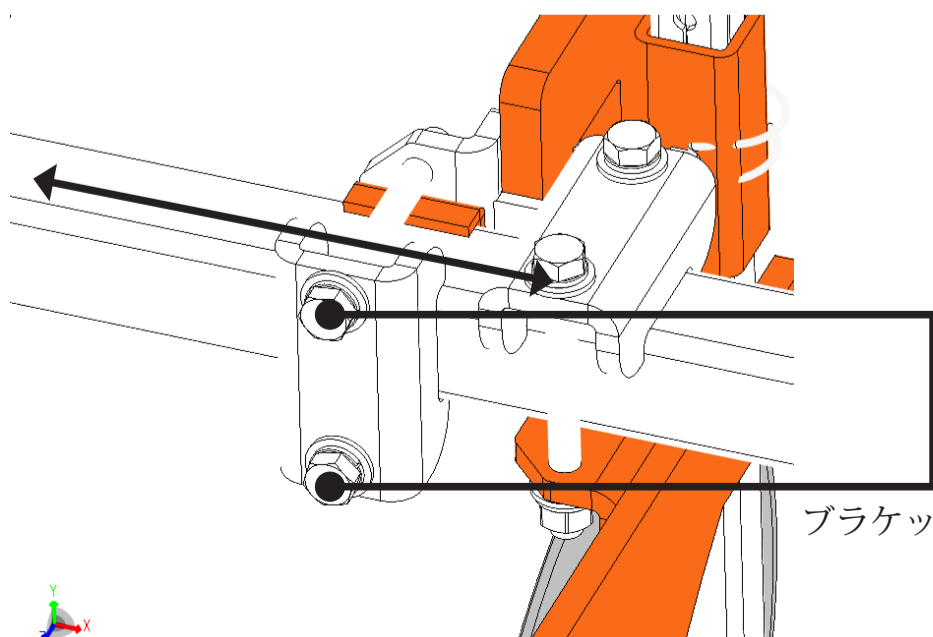
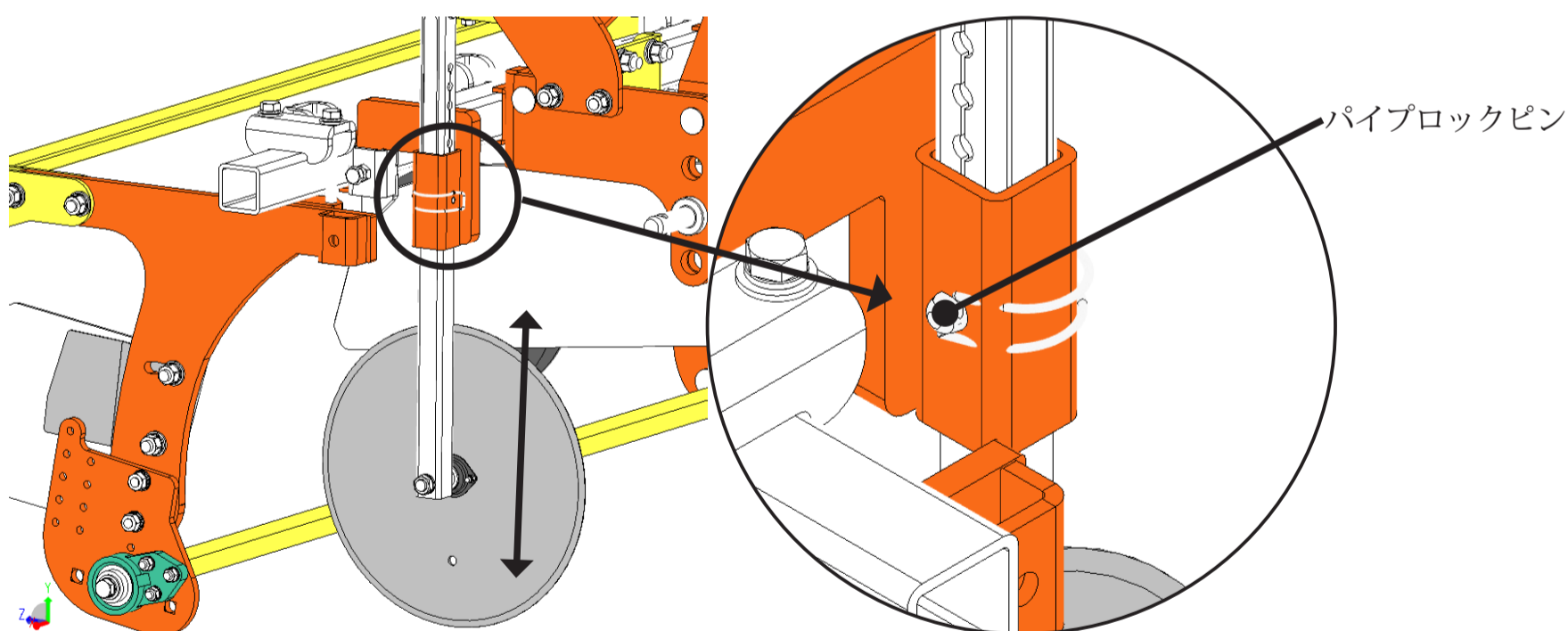
1. 作業を行う場合は、厚での作業服、丈夫な手袋、安全靴、ヘルメットを着用して作業を行って下さい。
2. 作業服は体にフィットした作業服で作業を行って下さい。



■ コールター調整方法

コールターの機能は玉ねぎの葉などの残渣物が本機に絡まるのを防ぐ装置になります。コールターの調整は、高さ調整と幅調整が可能になっています。

1. 高さ調整は、パイプロックピンを抜いて高さの調整が可能です。
2. 幅調整はブラケット D のネジ 2 箇所を緩めることで幅の調整が可能です。



**!** 注意

1. コールターを抜き差しする場合は、コールターが鋭利なので落下による足の負傷、素手により手の負傷などに注意して下さい。



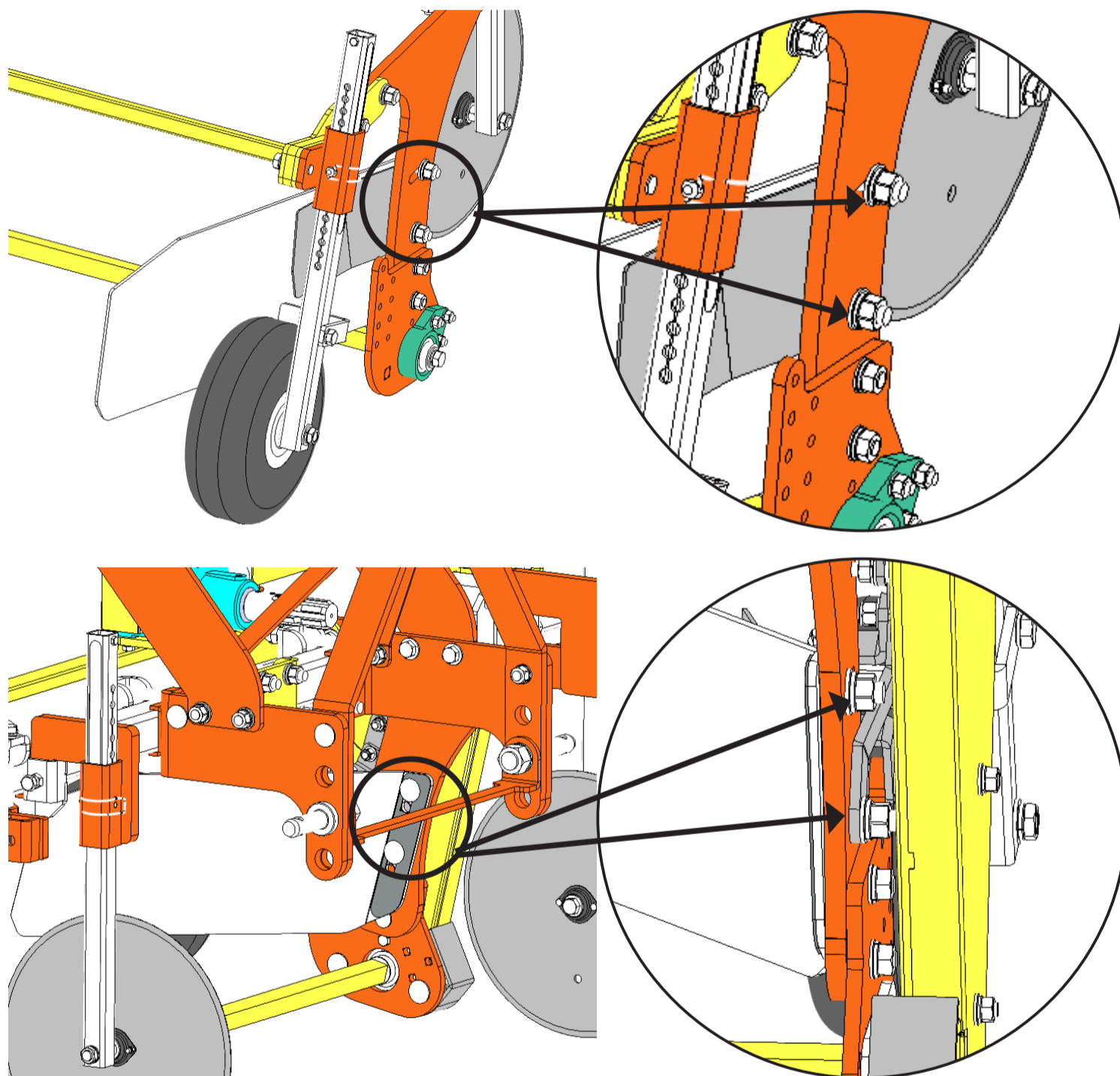
■スリックの調整について

スリックは、根が切れた玉ねぎの通路へ転がるのを防止する装置です。

1. スリックはネジ2箇所をスリックが動く程度に緩めることで角度の調整が可能です。

**!** 注意 調整中に負傷する場合があります。

1. 調整を行う時は必ずエンジンを止めて下さい。
2. スリックを調整する部分は一部狭い部分もありますので、注意して作業を行って下さい。



**CHECK!** 注意

- ネジはあまり強く締めすぎないで下さい。締めすぎることによって、スリックが変形または損傷する場合があります。

ボルト径	鋼製ボルト	
	強度区分 4.6【Nm】	強度区分 8.8【Nm】
M8	8.41	22.5
M10	16.7	44.5
M12	29.1	77.6



■チェーンの調整について

チェーンは使用とともに若干伸びる場合があります。伸びている場合は適時下記参考に調整を行って下さい。



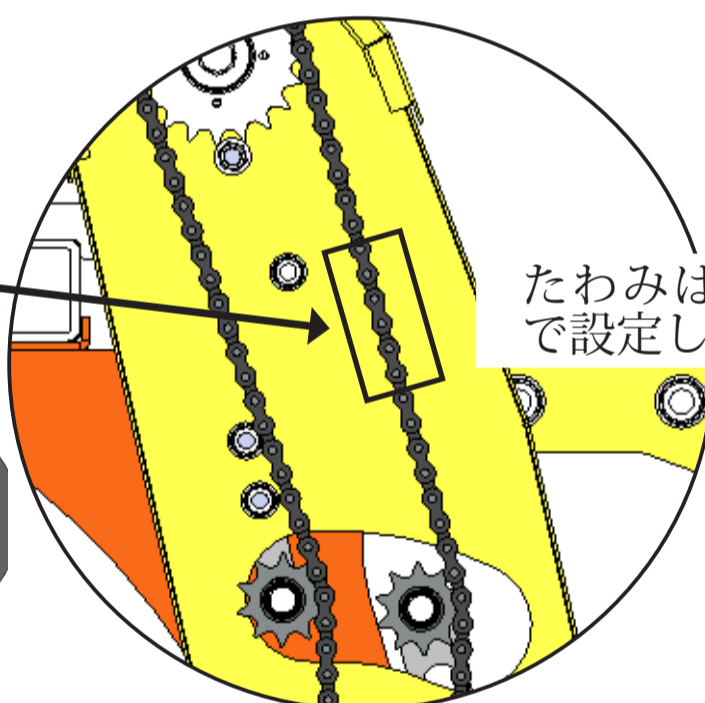
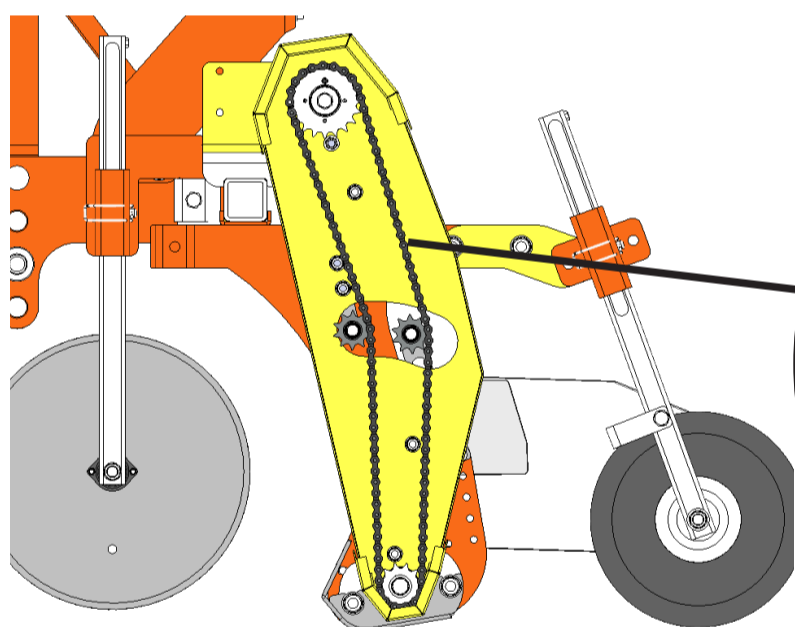
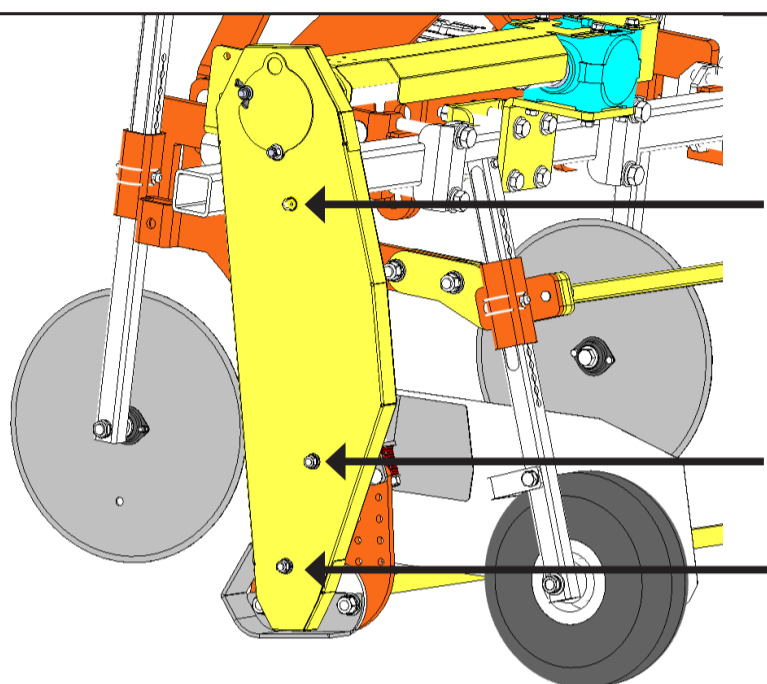
危険

エンジンを必ず止めてから作業を行って下さい。

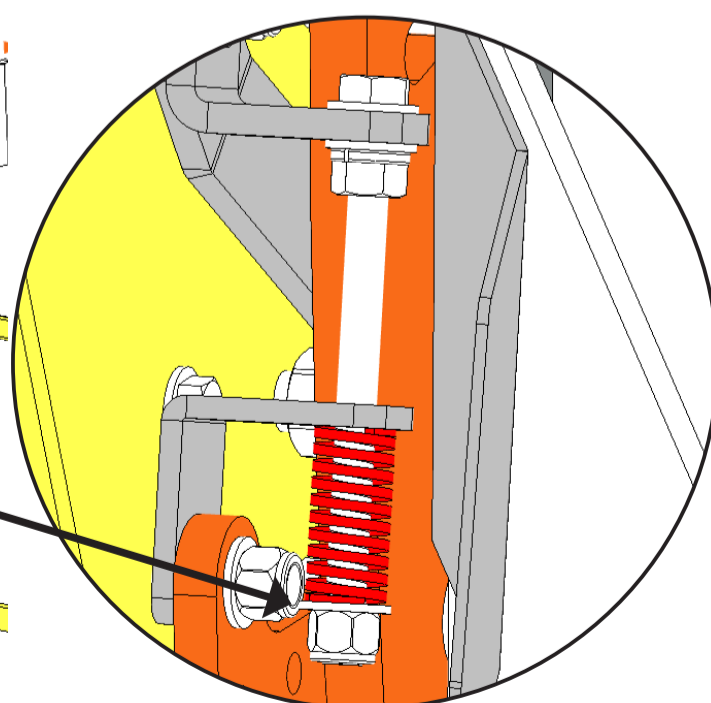
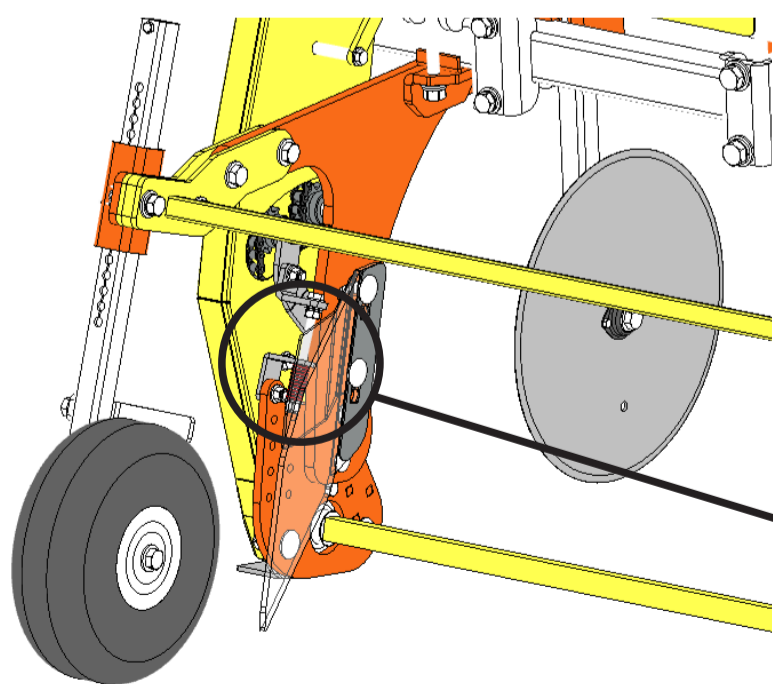
エンジンを止めてPTOを中立にしてから作業を行って下さい。PTOの回転により、巻き込まれる場合があります。

チェーンの調整には、まずチェーンカバーを外すためネジ3箇所を緩めます。

カバーを外すとチェーンが見えてきますので、テンションの張り具合を見ながら調整を行って下さい。



たわみは10ミリ程度で設定して下さい。



張り調整部分

**警告** 調整中に事故の危険があります

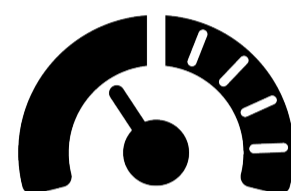
1. トラクタのエンジンを止め、駐車ブレーキをかけて調整を行って下さい。
2. 作業機は必ず地面におろし、場合により持ち上げた状態で点検を行う場合は、必ず油圧をロックし、頑丈な台などを作業機の下に置き、作業機が絶対に落下しない措置を講じて作業をこなしてください。
3. 作業を行う場合は、厚での作業服、丈夫な手袋、安全靴、ヘルメットを着用して作業を行って下さい。
4. 作業服は体にフィットした作業服で作業を行って下さい。

1

トラクタのエンジンを掛けてPTOを正転2速にして、エンジン回転数を1200～1500回転に設定します。

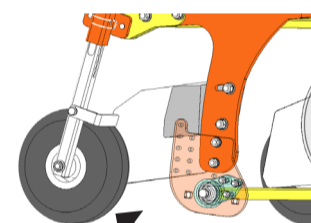
PTO 2速

1200～1500 r p m

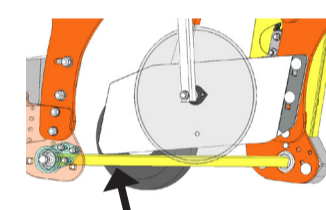


2

初回はタイヤを少し上げて、玉ねぎより下に回転棒が潜るようにして下さい。



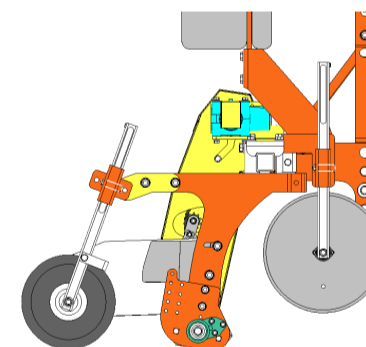
タイヤ



回転棒

3

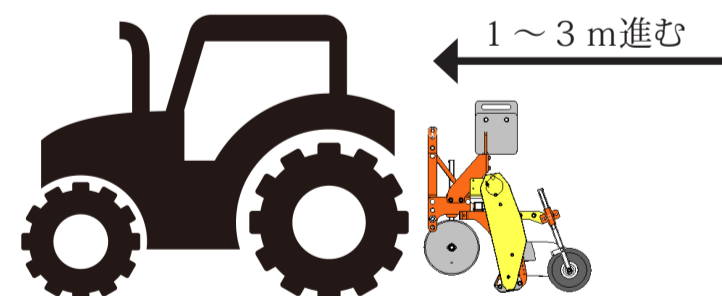
コールターは一番上に上げて下さい。



コールター

4

トラクタの油圧レバーを一番下まで下げて、1～2キロ程度の速度で1～3メートル程度進んで下さい。



1～3 m進む

5

エンジンを止めて安全確認をした後、玉ねぎの深さを確認し希望の根の長さになるように、再度ゲージタイヤステーの深さを調整し上記作業を繰り返します。

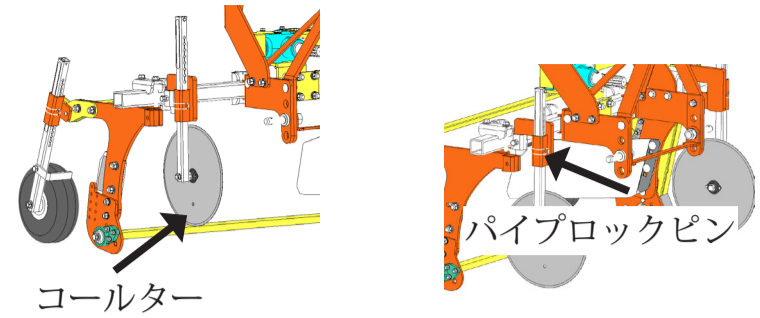


玉ねぎを確認



6

回転棒の深さが決まったら、コールターの深さを調整していきます。調整はパイプロックピンで調整をしていきます。



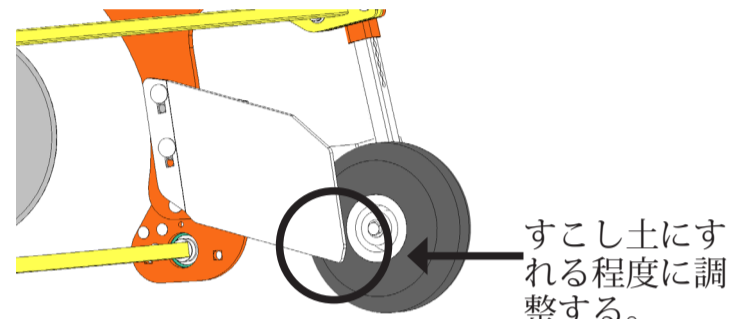
7

およそコールターの刃が5 cm 程度の深さになるように高さを調整して下さい。



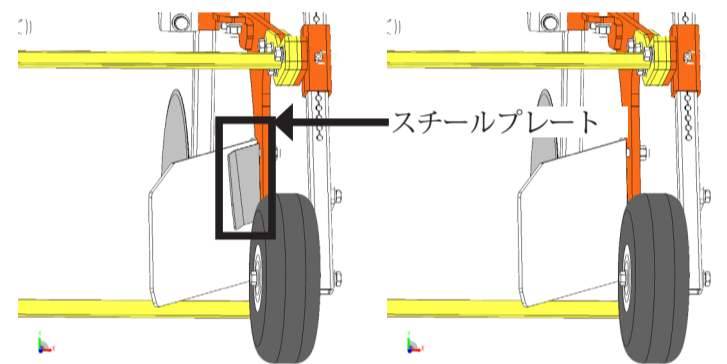
8

コールターの調整が終わりましたら、スリックの調整を行います。スリックが少し土にこすれる程度にネジを緩めて調整を行って下さい。



9

スリックに玉ねぎがあたって擦れる場合は、スチールプレートを外して使用して下さい。



10

すべての設定で問題ない場合は、作業速度を3～5 km で行い、状況に応じて適時作物に問題ないかを確認しながら作業を行って下さい。



### 安全ボルトについて

回転棒に負荷がかかった場合、安全ボルトが切れます。PTO を回転しても回転棒が動かない場合は新しい安全ボルトと交換して下さい。



安全ボルトをとめる穴は4箇所ありますが、1箇所のみ安全ボルトを取り付けて下さい。2箇所以上安全ボルトを取り付けると本機が損傷しますのでご注意ください。また、折れた安全ボルトがチェーンケースの残っていないかも必ず確認して下さい。

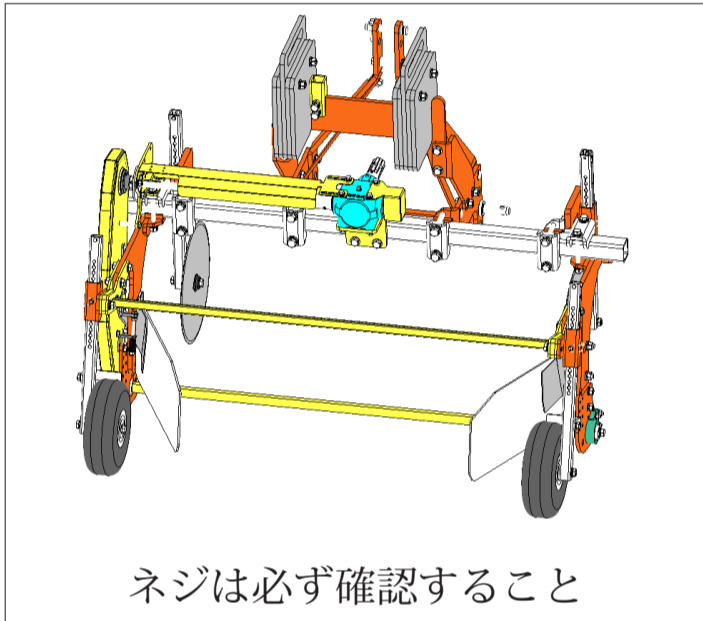
## 作業毎の点検項目

- ネジの緩み確認
- 駆動部の確認
- タイヤの確認



### ネジの緩み確認

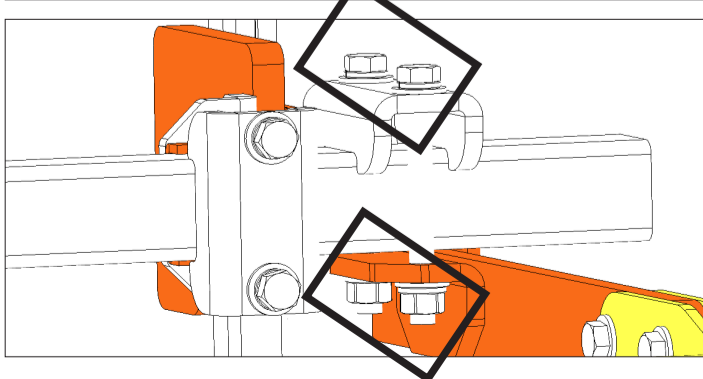
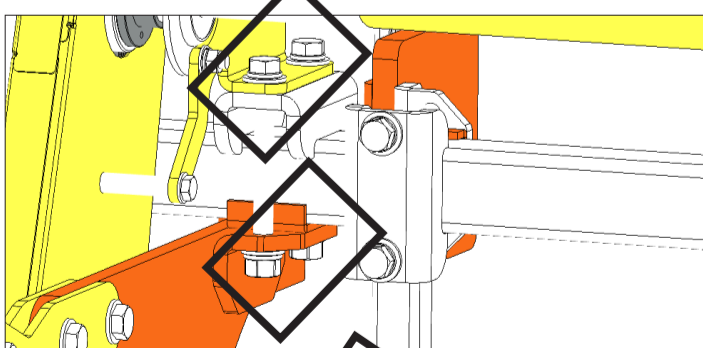
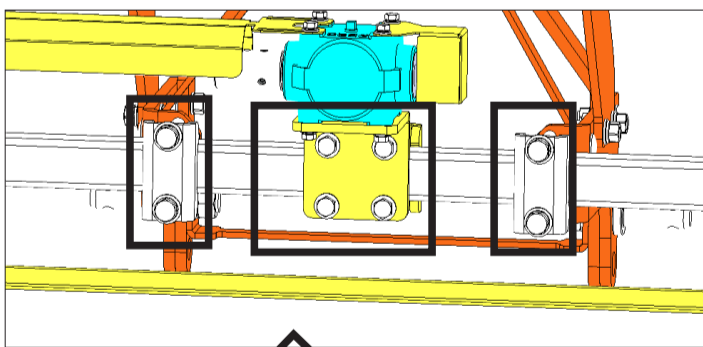
玉ねぎ根切機は商品特性により、ネジを多用しています。また、駆動式のためネジが緩む場合もありますので、必ずすべてのネジの緩み確認をし、必要な場合は増し締めをお願いします。



ネジは必ず確認すること

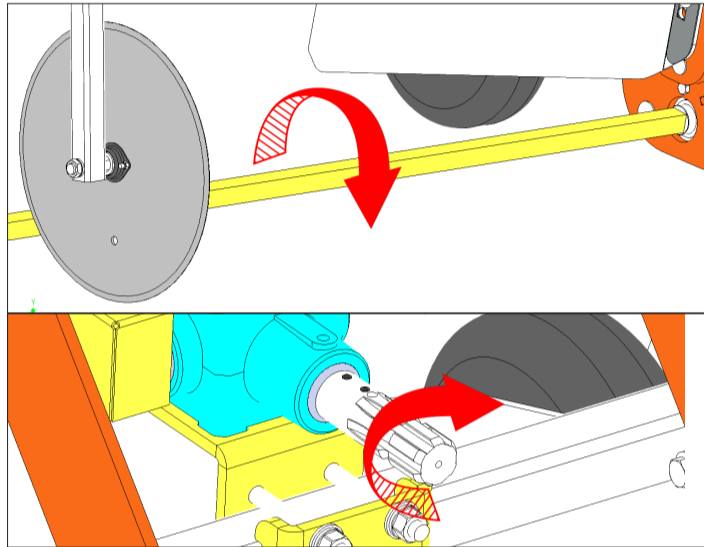


特に気をつけてほしい場所



### 駆動部確認

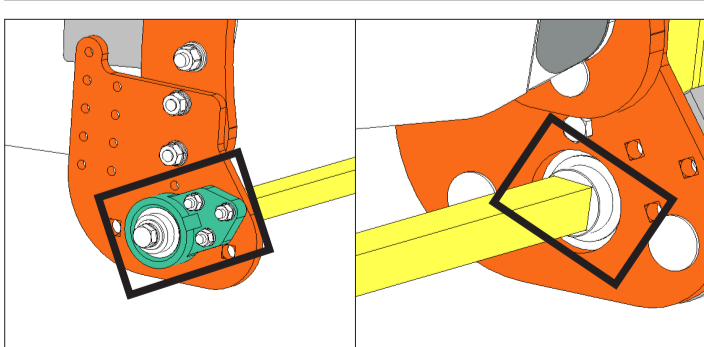
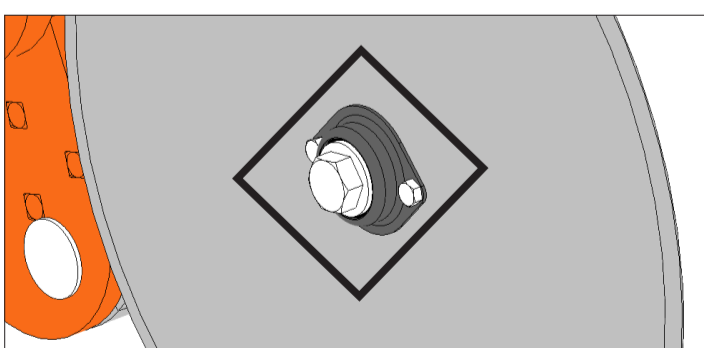
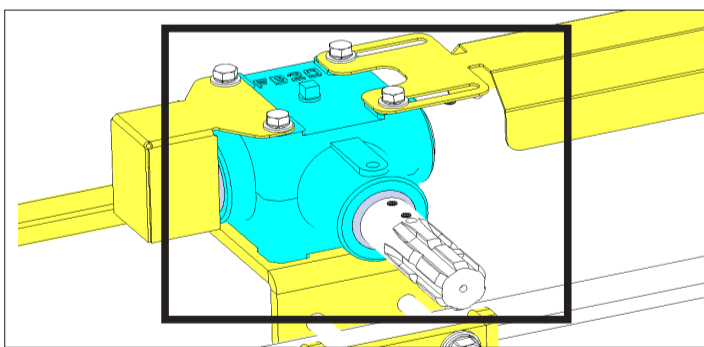
駆動部は手で回転棒が回るかを確認して下さい。手で回らない、異音がある、駆動がおかしいと思った場合は、無理に使用せず購入店での点検をお願いします。



駆動部に異常がないか確認すること



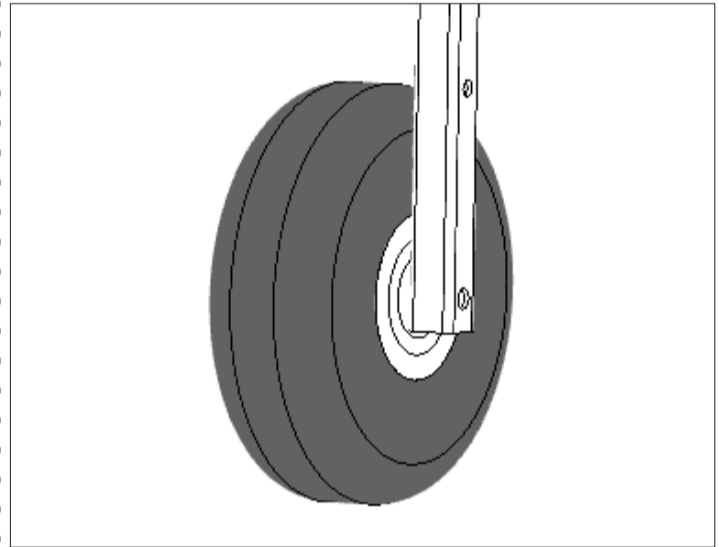
特に気をつけてほしい場所



### タイヤの確認

タイヤもパンクをしていないか、空気圧が適正に入っているかを確認して下さい。

適正空気圧：2.6 ~ 2.8bar



タイヤに異常がないか確認すること



特に気をつけてほしい場所



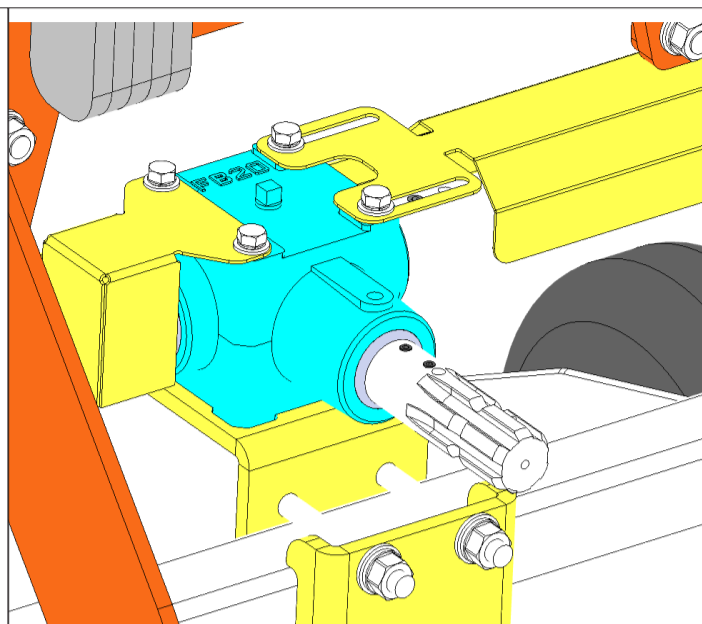
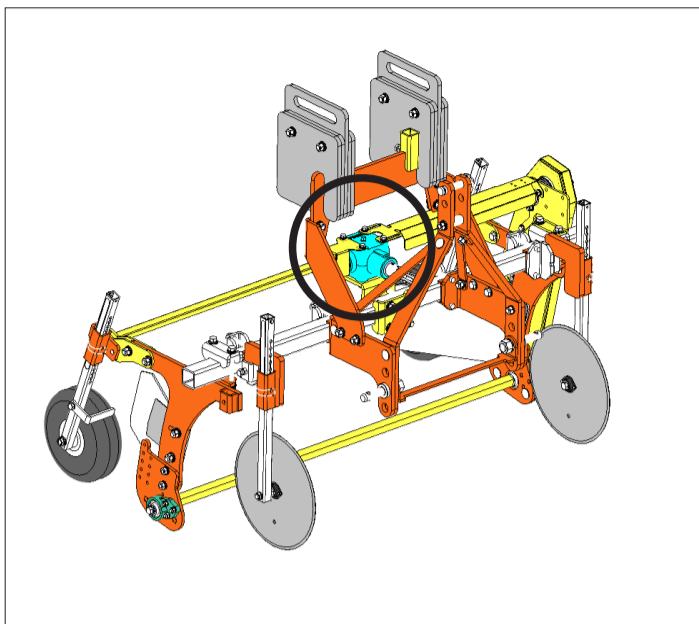
警告

タイヤの空気圧が高すぎると  
タイヤの破裂に繋がります。



## その他の点検項目

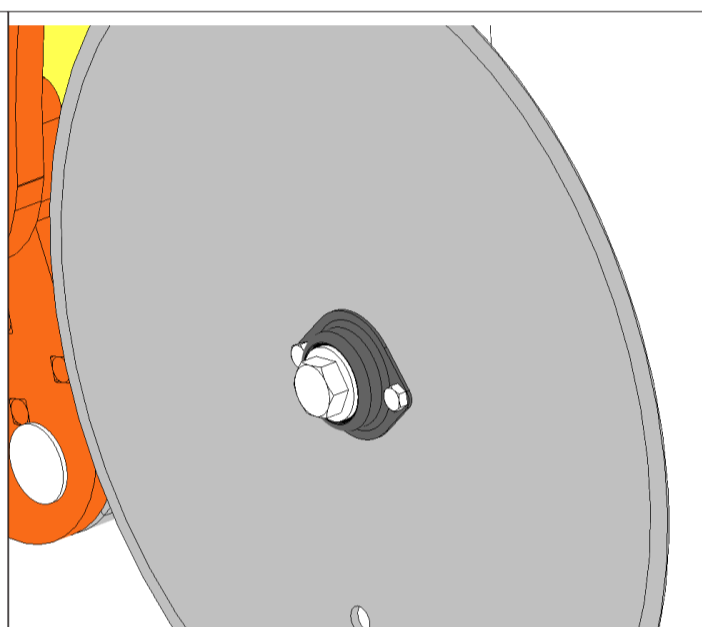
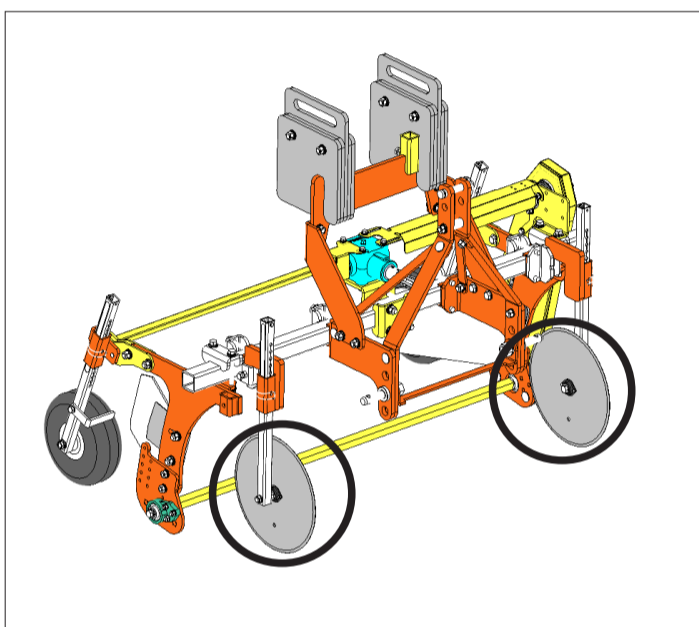
### 減速機のオイル状態



運転開始後 100 時間位で全量交換して下さい。それ以後は 2500 時間または 6 ヶ月に 1 度の間隔で全量交換して下さい。3 ヶ月以上運転しない場合は、内部防錆のため 1 ヶ月に一度、5 分程度運転して下さい。

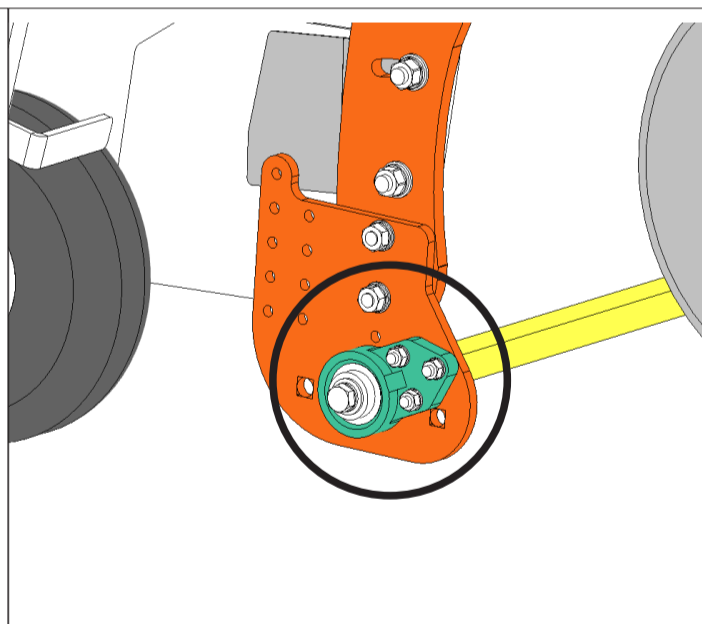
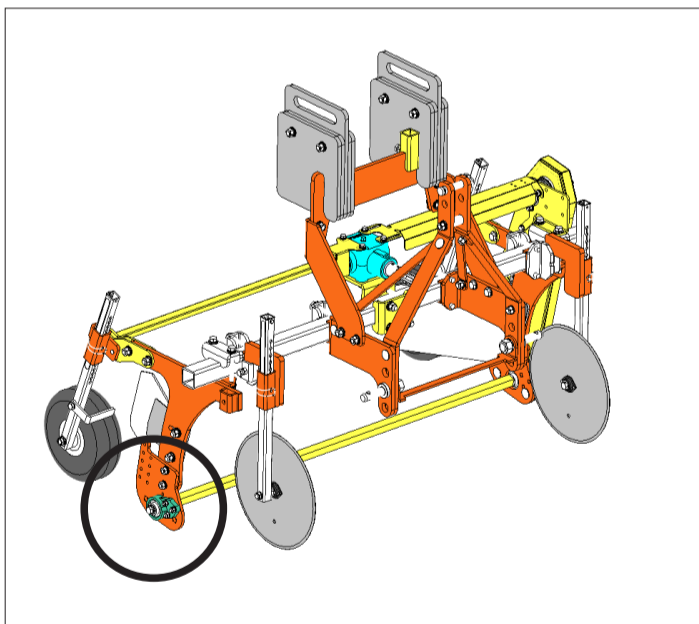
潤滑油指定：ボンノック M150

### ベアリング部（コールドター）



一般的な潤滑油スプレーを毎日して下さい。

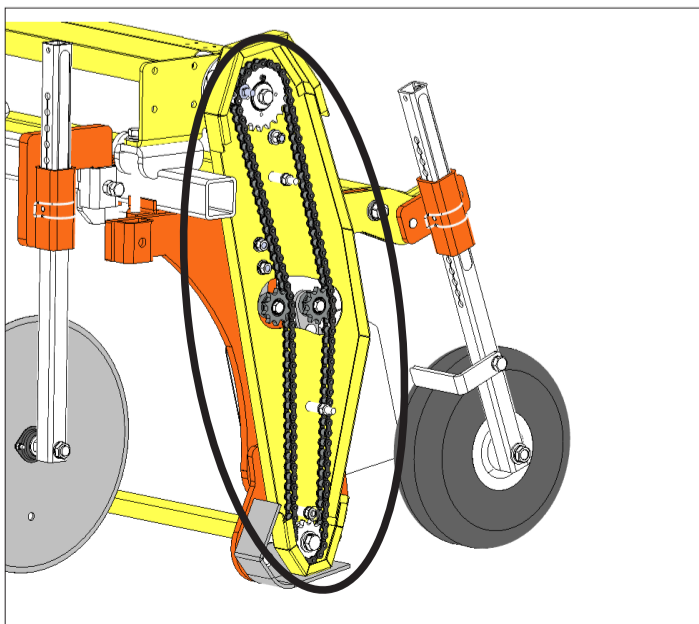
### ベアリング部（回転棒）



グリスニップのある部分には、毎日グリスを注入して下さい。

指定グリス：シャーシーグリス  
ちょう度：No.2

### チェーン部



チェーンには定期的にチェーンオイルスプレーを使用して下さい。



あなたの「あったらいいな」を“カタチ”にします。



本 社 北海道足寄郡足寄町旭町5丁目71-1  
TEL(0156)25-5806 FAX(0156)25-6121

キューホー

検索 

商品は改良の為、予告なく変更する場合があります。